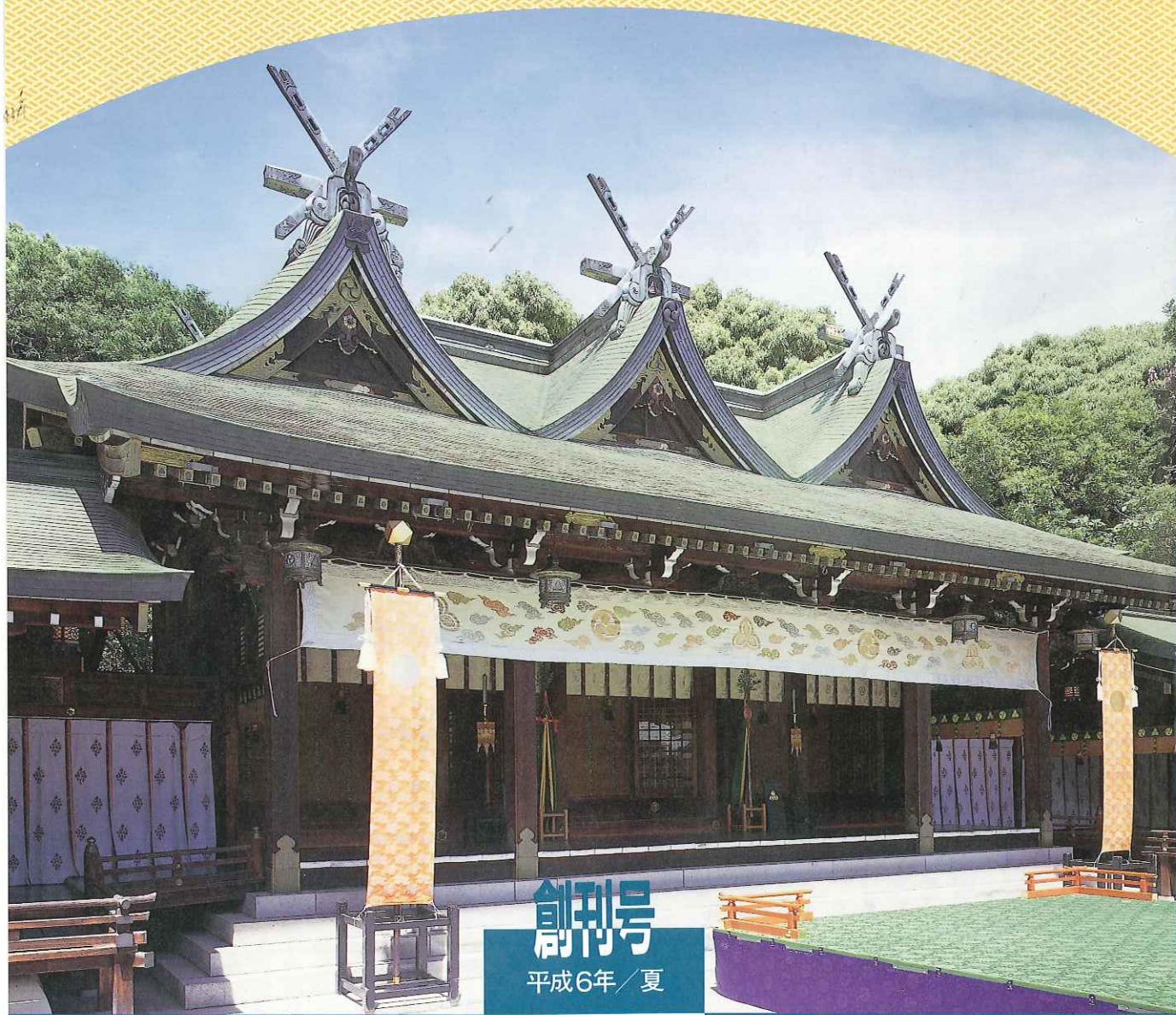


西宮 元びす

NISHINOMIYAEBISU



創刊号

平成6年/夏

西宮神社/〒662 兵庫県西宮市家町1-17
TEL0798-33-0321 FAX0798-33-5355

西宮 元びす

NISHINOMIYAEBISU

創刊号

平成6年/夏

西宮神社

〈境内の四季・花菖蒲〉



編集室から

昭和7年から17年までの「広西両宮社報」と35年から51年まで発刊の「西宮」から久しく滞っていた社報を再刊することとなりました。夏と冬の年2回、なるべく皆様方の視覚に留まるようなかたちで西宮神社の情報をお届けできればと思います。

太々神楽祭も期間中晴天に恵まれ全国から多数の参拝者が来られました。その中にタイガースの不振を嘆く声が聞かれました。いつも期待を裏切る虎達よ、今年こそは巷の予想を裏切って秋には、お礼参りに来てほしいものです。
(英)



INFORMATION

お知らせ

オリジナルミュージカル 「スサノオ」観劇のお誘い

昨秋の第六十一回伊勢神宮式年遷宮を契機に日本の伝統が再認識され、日本神話に関心を寄せる方が増えて来ました。この時にあたり、神社界の企画制作により「古事記」を現代的なミュージカルという形でご覧いただくこととなりました。脚本



はNHKの大河ドラマを数多く手掛けた杉山義法氏、メインキャストは若者に人気の「忍者」の面々、元宝塚のトップスター剣幸、衣裳・人形は世界的に有名な辻村ジュサブロー氏と多彩なメンバーとなっています。どうぞ、この人間的で生命力あふれる神々の壮大なドラマを観劇されますようお願いいたします。関西公演(京都・南座は9月2日より同25日まで)ですが特に当社関係者の指定日は、9月11日(日)の昼の部となっています。ご予約を当社にてお受けしております。

9月2日より同25日までですが特に当社関係者の指定日は、9月11日(日)の昼の部となっています。ご予約を当社にてお受けしております。
S席1万円 A席6千円



新ブランド米「えべっさん」

毎月当社に、献米を続けている阪神米穀協がえびす様にちなんだ純国産米の新ブランド「えべっさん」を4月1日から販売開始、袋の「えべっさん」の文字と口上は、西宮神社宮司が揮毫しています。

7月24日世界人形フェスティバル
傀儡の故郷西宮神社からスタート
阪神間で初の開催となる世界人形劇フェスティバルは、人形浄瑠璃や文楽の源流で、えびす信仰を全国に広めた傀儡師の祖

当社への道しるべ

阪神電車西宮駅南へ300m(徒歩3分)
阪急電車神戸線 夙川駅南東へ900m(徒歩10分)
JR東海道本線西ノ宮駅南西へ1km(徒歩15分)
3月に建設省により国道2号線に標識が設置されました。



創刊によせて

宮司 吉井 良隆



このたび社報『西宮えびす』を創刊するにあたって、ひと言所感を述べさせていただきます。創刊とは申しますが、実は昭和七年から『西宮西宮社報』と名付けたタブロイド版の新聞型機関紙が発行されていきました。広西宮宮といのは、広田・西宮両宮を指すもので、いわば両宮合同の社報誌であったわけです。回を重ねること二十五号、やがて戦局苛烈となって、物資統制のもと昭和十七年発行中止のやむなきに至りました。それから十八年、昭和三十五年本殿復興を機に、西宮神社社報『西宮』を面目も新たに冊子形式の体裁で復刊することになり、これが今日までつづいて二十五号を数えるまでになりましたが、不定期刊行物のため刊行頻度が少なくなっています。そこでこれに加えて、もう少し手軽に情報提供ができ、同時に氏子の啓蒙を必要とする時代要請に応え得る社報を考えて発行の運びにいたしましたのが本誌なのです。したがって経過からみると、創刊というより復刊が続刊といった方が適切な表現かもしれません。多くの神社から寄せられたすぐれた個人的な社報の類を参考にさせていただきながら、さらに新しい企画のもとで編集をしてまいりたいと思ひ、あえて創刊といたしました。今後ともよろしくご指導のほどをお願いいたします。

いま、印刷技術の飛躍的な発達や情報伝達システムの開発、発展などによって、あらゆる情報資料の巷に氾濫する、いわゆる情報化時代の到来は、当然各分野で情報に対する関心が寄せられ、強められていることは否めない事実であります。そのために人々は情報を集め、流通させ、それを消費して、さらに新たな情報の生産を行うという任務を負わされています。うかうかしていたり、無関心を装っていても、たちまちにして情報資料に押し流されてしまうという厳しさのなかに立たされているのが現代社会なのです。

神社から発行されるささやかな社報ではありますが、情報資料の一つであることはまちがひありません。氾濫する資料群のなかで生きのびるためには、余程の工夫とアイデアをもって人をひきつけるものでなければ、つきにくる資料選択という多くの人々の厳しい目からおとされ、反古同然に捨てられてしまう破目におち入らなことも限りません。そこに情報化社会での編集の難しさがあるわけです。ただ社報ぐらいと侮ってはいけません。社報は、神社の日常記録をとどめておくという意味があると同時に氏子の啓蒙誌として大切な役割をもっています。したがって氏子の人々は、常に神社に何をのぞみ、なにを期待しているか、その動静に注目をしながら、魅力ある社報づくりにつとめなければならないと思ひます。

夏 えびす萬燈籠



七月二十日は午前十時から夏祭りが本殿で斎行され、湯立神楽が奉納される。午後六時半からえびす萬燈籠点灯式が斎行され、二神火が拝殿前の大燈籠に点灯されるのを皮切りに、西宮神社氏子青年若えびす会の奉仕により、境内外の約三百基の石燈籠に次々と火が入って行く。拝殿前の特設舞台では、神賑行事として原筈会により舞楽が奉納される。神社周辺は夜店で賑わい、神社からえびす提灯が特別に授与される。

秋 宮水祭り



宮水祭りは、九月二十一日午前十時から久保町の宮水発祥の地で秋から始まる新酒の醸造を前に、宮水娘が井戸から宮水をくみ出し、西宮神社へ向かい、神前にお供えをして、酒造り歌を奉納、市内の二十四社の酒造会社で共同醸造する「えべっさんの酒」の醸造祈願祭を執り行う。午後は、稚児行列に引き続き六時からの西宮えびす祭りでは、パトン・プラスバンドを先頭に樽みこし、ギャルみこし、だんじりが市内を巡幸する。

秋 ご例祭



九月二十二日は、午前十時から神社で最も重要な祭典である例祭が、午後二時から渡御祭が本殿で斎行される。今年はおみこしが市内の浜脇・香榎園地区を巡幸、途中お旅所で神幸祭を斎行、午後五時に本社へ還御する。このおみこしの巡幸は、もとは西宮港から神戸市兵庫区の和田岬のお旅所まで船で海路神幸、馬で陸路還御していたのを現在の形で再興して今年で三十七回目を迎える。境内は露店や奉納芸能大会で賑い、二十二、二十三日の両日氏子区域をだんじりが巡幸する。

西宮神社のお祭り(7月~11月)

7月	10日 沖恵美酒神社祭	20日 夏祭えびす萬燈籠	10月	10日 体育の日祭	17日 神嘗祭当日祭
9月	15日 敬老の日祭	21日 宵宮	11月	3日 明治祭	22日 造営記念祭
	20日 観月祭	21日 宮水祭り		20日 誓文祭	23日 新嘗祭
	21日 庭津火神社祭	22日 例祭		1~30日 七五三詣	

各月 1・10・20日は月次祭



太々神楽祭とは、当社の崇敬のために本社並びに各地に組織されている講社の人々が年に一度本社に集い、えびす大神様の御前で舞楽を奏し、お慰めすると共に、そのご神徳を代々にわたり、ますます盛んに新旧相ついでいくものです。



神楽

「大海の幸」
「大山の幸」
「鉾剣の舞」
「鈴扇」



太々神楽祭

五月

- 二日 醇友会太々神楽祭・八馬家太々神楽祭
- 三日 大阪第一招福組太々神楽祭
- 四日 日供講社太々神楽祭
- 五日 西宮太々神楽祭
- 六日 諸国講社太々神楽祭
- 十日 本えびす講社太々神楽祭

えびすの森の新緑に

心洗われる皐月

彩やかな衣が

その中で映えて

悠遠な古を舞う



舞楽

「桃李花」
「蘭陵王」
「納曾利」
「胡蝶」

西宮神社の講社

入会のご案内

一人でも多くの方が「えびす大神様」とより一層深いご神縁を結ばれ、ご加護をいただかれますよう、皆様方にご加入をお勧めいたします。

日供講社

(えびす大神様に朝夕のお供えとお誕生日にご祈禱をいたします)

講金年額 五千元

本えびす講社

(西宮神社の崇敬会)

講金年額

- 正講員 一千元以上
- 梅講員 五千元以上
- 竹講員 一万元以上
- 松講員 三万元以上

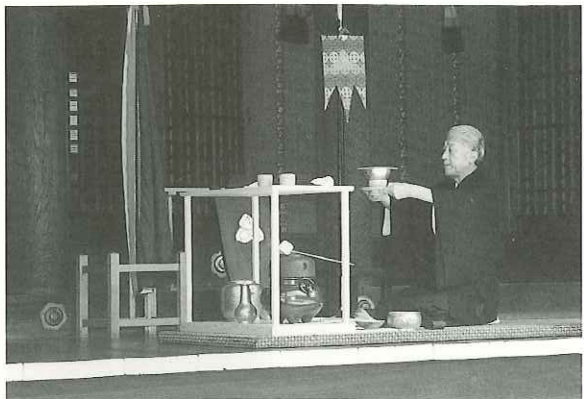
詳しくは、西宮神社講務課までお問い合わせ下さい。

☎0798-330321

トピックス

四月十九日、茶道裏千家家元千宗室宗匠によって献茶式が行われた。この日は、宗室宗匠のお誕生日にあたる佳き日となっているので、毎年この日に献茶式が行われ、今年で数えて第二十八回目を迎える。

当日は、午前九時半の祭典に引き続き神社社会館にて淡交会阪神支部により本席が、また社務所東館にて淡交会神戸支部によって副席が設けられ、終日華やかな風景がくり展げられた。



「裏千家」家元を迎えて
お茶会を開催

午前十時、応援歌の「六甲おろし」が流れる境内にユニホーム姿で到着した一行は、拜殿内に整列。修祓、祝詞奏上に続き、代表に合わせて全員が神妙な面もちで玉串拝礼。神酒をいただいで誓いを新たにす。

祈願祭に引き続き、えびす様にふんした米卸売会社・阪神米穀協の田中覚社長から今春発売されたばかりの純国産米「えべっさん」とえびす様に付き物の「タイ」米がタイガースの独身寮に贈られた。



タイガース必勝祈願
「えべっさん」米も贈呈

プロ野球公式戦開幕を二日後に控えた四月七日、阪神タイガースの久万オーナー、三好球団社長、中村監督をはじめ役員、一軍選手ら約八十人がチームの必勝と球団の商売繁盛を祈願した。



梅雨の晴れ間の六月十四日、えびす様のご鎮座にまつわる「おこしや祭り」が斎行された。このお祭りは鳴尾浜の漁師がえびす様のお供の途中、居眠りを始めたえびす様のお尻をつねって起こしたことから「尻ひねり祭り」とも又この日から一斉にゆかたを着始める習わしから「ゆかた祭り」、或いはピワをお供えすることから「びわ祭り」とも呼ばれている。

今年から新たに選ばれたお揃いのゆかた姿の十名の「びわ娘」が行列に初参加、おこしや祭場で参拝者にピワを配ったほか、西宮音頭の披露福引や俳句会、蛍の放生など夜遅くまで賑わった。



福神の代表であるエビス

えびす・だいきく福の神と全国にその名を知られているえびす様。関西人は親しみをこめて「えべっさん」、東海地方では「おいべっさん」、北陸地方では「おおべっさま」、関東以北では「おえびすさん」とまるで隣人に語りかけているかのようです。またその霊験も漁業・海上交通・交易・商売・勝負・農耕と実に多様であります。これは、人形浄瑠璃や文楽の源流でえびす信仰を人形操りに託して全国に広めた西宮神社の神人であった傀儡師や西宮神社の御影札を地方で配札したえびす太夫が漁村では海神・農村では田の神・都市部では商業神としてのご神徳を説いたためにファジーな性格が福神というかたちでまとまり、広く親しまれる神様になっていったのであります。

日本のヒーローえびす様

エビスの源を探る

えびすという言葉の意味はその字からもわかるように夷・戎・狄・胡・蛮とどれをとっても中国における異郷の人をあらわしています。えびす様のお神像の右手の釣竿は、水界と人間界の架け渡しを左手の鯛は、海の幸を象徴しているといわれていますが、漂着神としての性格として漁村では海中の石や流木、水死体や鯨や鮫をえびす様として大切に扱ってきました。室町時代から広まっていた七福神も金銀米俵を満載した宝船でやって来ます。西宮神社のご祭神が小さな舟で大海原へ流された蛭子神であるという伝承もこの地が新しい文化や魂が寄り着く瀬戸内海の終着点であったからであります。

エビスの教えを考える

それにもまして、脚や耳が不自由であるという伝承をもつ神様を排除するのではなく、崇める対象として守っていくことで福を授けてもらうという思想は神様が人間に与えてくれた共存共栄の知恵かもしれません。人間の中にいる外界への憧れや刺激が向上心となり、生活のレベルをあげようとするのと流された神を大切に祀ることによって現世利益を祈ることは共通します。よそ者を排斥した国に未来がなかったように、えびす様が福神になるための鍵は、各人の包容力のある豊かな心とそれをあらわす行動の中にあるのではないのでしょうか。